

巡回芸術劇場演奏会について

山響は、毎年県内の学校を訪問し、子どもたちにオーケストラの生演奏を提供しています。定期演奏会と並ぶ、山響の活動の柱の一つであり、これまで訪問した学校数は300を超えています。

この事業は、昭和48年、山口県教育委員会の事業「へき地巡回音楽教室」として発足したもので、その後「巡回音楽教室」、「巡回芸術劇場」と名を変え、現在では県教委と山口県高等学校文化連盟の委託事業として実施されています。管弦楽のほか、合唱、演劇、邦楽など様々な形態の公演が行われています。

この演奏会は、通常、学校の体育館で行われますが、地域のコミュニティセンターや文化ホールに近隣の小学校、中学校が複数集まって鑑賞するという形も多くなっています。公演は、多かった時期には年5日10公演、離島に一泊二日の行程で実施したこともありましたが、近年は年2日4公演となっています。



公演プログラムの中でも、オーケストラならではの企画が「指揮者に挑戦」コーナーです。生徒と先生の代表が、簡単なレクチャーを受けて指揮をします。指揮者によって曲の速さや音の大きさ、曲の表情も変わることが良くわかります。

中には、マエストロになり切ってオーバーアクションで棒を振る生徒や先生もあり、会場は大いに盛り上がります。この指揮者体験が、後に本格的に音楽を始めるきっかけになったという人もおり、子どもたちに貴重な経験と思い出を提供する機会となっています。



子どもたちの校歌に合わせて演奏することもあります。オーケストラの大合奏による伴奏で、子どもたちの歌声はひときわ大きく、演奏者も胸が熱くなり、会場が一体となるのです。

平日の公演であること、団員が県内各地から訪問校に集まること、午前の訪問校から午後の訪問校に各自で移動し、1日に2回の本番をこなすことなど、体力的な負担も少なくありませんが、初めて見る楽器に目を輝かせる子どもたち、終演後に笑顔で挨拶してくれる子どもたち、そして後日送られてくる子どもたちの感想文に、団員もまた、元気をもらうのです。山響がこれからもずっと大切にしていきたい活動の一つです。

<巡回芸術劇場プログラム> (平成27年度)

指揮：吉浦勝喜 解説：桑原洋一

- 交響曲第5番「運命」第1楽章（ベートーベン）
- 「カルメン組曲」より 前奏曲、アラゴネーズ、闘牛士（ビゼー）
- 行進曲「威風堂々」第1番（エルガー）
- 楽器紹介
 - ・弦楽器：リュートのための古風な舞曲とアリア（レスピーギ）
 - ・木管楽器：水上の音楽より ア・ラ・ホーンパイプ（ヘンデル）
 - ・金管楽器：ペリのファンファーレ（デュカス）
 - ・打楽器：ドラムマーチ
- 指揮者に挑戦
 - ・ラデツキー行進曲（シュトラウス1世）
- ディズニーメドレー
- アンコール
 - ・ハンガリアンダンス第5番（ブラームス）

